



教育サポートセンター
子ども支援相談室便り
令和3年9月号

子どもが年相応の自立心をもてるように ～メシテイの少ない子育て～



ご家庭で次のような声かけをよくしませんか。

「お風呂に入りなさい！」

「そこにたんである洗濯物を持って行って、自分のタンスに片付けて。」

「水筒を持って行ったほうがよくない？」 etc・・・

自分（相談員である私）が子育てをしていたころ、必要なしつくだと思って言っていた言葉です。最近このような言葉かけを命令・指示・提案（メシテイ）といい、メシテイが多いと、過干渉な子育てになりがちだと言われるようになってきました。

子どもに失敗させないようにと思うあまり、メシテイが多くなりすぎると、子どもはメシテイを待って行動するようになり、親への依存心が強くなってしまいます。

また、メシテイの多い親は、メシテイで子どもをコントロールできなくなると、イライラして、さらに強いメシテイを出してしまいます。

強いメシテイを受け続けると、子どもは親に強く依存し、親と離れること（母子分離）に不安を覚えたり、年相応の自立ができにくくなったりすることもあるので、気を付ける必要があります。



では、どうすればよいのでしょうか。

それは、子ども自身が困る問題なのか他の人（親も含める）が困る問題なのかを分けて考えることで解決できます。

困るのは子ども自身だと判断した場合は声かけは不要です。「子ども自身が困った経験や失敗する経験も大切だよ」と考えを切り替えて、メシテイを出さずに、失敗の経験もさせてあげてください。

困るのが他の人（親も含める）であるならば、その人がどんな気持ちになるか想像させながらメシテイを出すことも必要になってきます。

子どもが「年相応の自立心」をもって成長してくれると嬉しいですね。

子どもの詩

素直な子どもの声を聴くことは、大事ですね。失敗も大切な学びだと思って待ってあげたいですね。

「うるさい」 小4

朝起きたら
早く朝ごはん食べ
朝ごはん食べたら
顔あられ
顔あろたら歯みがきしいや
学校行って帰ってきて
八時になったら
早く夕食たべ
夕食たべたら
じゅくの宿題し
その後もはみがきしろ
もううんざりだ

「かけざん」 小2

かけざんをれんしゅうした。
おかあさんといっしょにやった。
めちゃくちゃやったら お母さんが、
「いやいややるがだったらいつまでもやりなさいよ。」と言った。
それでますますいやになった。
またお母さんに、
「まじめな顔でやりなさい。」と言われ
「しんどい。」と言うと、
「口がさけてもやりなさい。」と言った。
お母さんも子どもどころ
「しんどい。」て言うたろ。



「私と同じ! 」と共感できる子どもたちの詩を29編収録。親子で、また教室で読み合っほしい一冊です。

引用「いじめのきもち」村山士郎 童心社

「いやだった自分」 小5

きのう ぼくは おかあさんにおこられた
テストで 百点とれなかったからだ
「なんで ご飯をたべないの」
と またおこられた
ぼくは お母さんにギャクギレをした
「うるさい。」と ぼくは言った
「いうことを聞かないなら 出て行け」
と どなられた。
「ぼくは 百点なんかとれないんだよ」

子育ての相談は、**やつしろ子ども支援相談室**へどうぞ
電話や来所での相談 0965-30-1669 (9:00~14:00)
メールでの相談 kodomo-sien@yatsushiro.jp
面談での相談 八代市千丁町新牟田 千丁支所2F

